

# 予 算 要 求 資 料

令和2年度9月補正予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工業研究費

## 事業名 生活技術研究所開発研究費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

生活技術研究所 試験研究担当 電話番号：0577-33-5252

E-mail：[c23106@pref.gifu.lg.jp](mailto:c23106@pref.gifu.lg.jp)

### 1 事業費 補正要求額 150千円（現計予算額：6,000千円）

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	6,000	0	0	0	0	0	3,600	0	2,400
補 正 要求額	150	0	0	0	0	0	150	0	0
決定額	150	0	0	0	0	0	150	0	0

### 2 要求内容

#### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

研究内容の変更に伴い研究テーマ「国産早生樹種の用材利用に向けた材質・加工特性の解明」においては、外部資金の予算額を増額し、研究テーマ「木材の触覚特性の数値化と手触り感に関する指針の提案」と「家具製造現場におけるトレーサビリティ基盤技術の開発」においては、事業費の内訳を変更する。

#### (2) 事業内容

(継続研究課題) 3 課題

- ・ 木材の触覚特性の数値化と手触り感に関する指針の提案(R1～3)
- ・ 家具製造現場におけるトレーサビリティ基盤技術の開発(R1～3)
- ・ 国産早生樹種の用材利用に向けた材質・加工特性の解明(R1～3)

(新規研究課題) 4 課題

- ・ 超撥水処理による木材の耐水性向上(R2～4)

- ・年輪構造に着目した幅接ぎ集成板の反り変形抑制技術の開発(R2~4)
- ・超音波法による木材の密度測定手法の確立(R2)
- ・家具製造現場の生産性向上のためのIoTシステム開発(R2)

### (3) 県負担・補助率の考え方

当該事業は、県内地場産業支援に直結するものであり、県負担は、適正と考える。また、各研究課題については、外部の研究資金獲得のため申請し、県費負担を減らすことを行います。

### (4) 類似事業の有無

なし

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	82	
その他	68	備品購入費
合計	150	

### 決定額の考え方

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

岐阜県長期構想に揚げる、「ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくり、モノをつくって、地域外からお金を稼ぐ地域をつくることを目指す」ために、木製家具、木製品製造業、住宅建設業を中心とした県内の木質系産業の抱える課題に対して、各課題実施期間内に研究開発を行い、新技術による競争力の強化、付加価値の高い商品開発につなげます。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
技術移転の推進 * 関連企業への技術移転	(H )	1 件 (H28)	1 件 (H29)	2 件 (H30)	2 件 (R2)	100%
外部資金の導入 * 外部資金による研究課題	(H )	2 件 (H28)	2 件 (H29)	2 件 (H30)	2 件 (R2)	100%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

令和元年度は、6テーマの研究開発に取り組んでいます。その中でも、6月20日、研究所研究成果発表会において、「家具製造現場におけるトレーサビリティ基盤技術の開発」「レーザー加工機を用いた立体形状切削の研究」「日本の伝統的素材を用いた木材の耐久性向上技術の開発」「感性に着目した幅はぎ集成材の設計指針の導出」「体格や好みに合わせた家具製品のカスタマイズ技術に関する研究」についてポスター展示し来所者 53 名に説明をしました。また、9月4～8日、飛騨・世界生活文化センターで開催された“飛騨の家具フェスティバル”岐阜県生活技術研究所展示ブースにおいても、関係者及び、一般市民に対して、成果物を見せながら研究内容をPRしました。

(前年度の成果)

<p>・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果</p> <p>令和元年度に取り組んだ研究から、新たな知見として以下のことが得られました。</p> <p>・柿渋溶液の含浸方法として、あらかじめ加熱柿渋溶液内で木材を処理し、横圧縮の回復を利用すること（日本の伝統的素材研究）。</p> <p>・グレースケール画像をレーザー加工用のデータとして利用できるツールを作成したこと（レーザー加工研究）。</p> <p>・個人の身体寸法に合った設計値を計算するアプリケーションを開発しました。特に背もたれの設計値やテーブル高などの設計に係る人体寸法の予測精度が高いものとなりました（カスタマイズ研究）。</p> <p>・10種類の広葉樹及び針葉樹の無垢材の熱伝導率を求め相談対応しました。今後も逐次、得られた技術データを企業へ、技術支援に活用していきます。</p>
--

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）</p> <p>○：必要性が高い、△：必要性が低い</p>	
(評価)	<p>○</p> <p>県内の木質系産業は、とくに飛騨地域においては主要産業です。これら製造業において、地域資源を生かしたモノづくりは、他産地との差別化、生き残りのためにも必須です。これら企業は、中小企業が主であり、これらに対しての産業支援の必要性は高いと考えます。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）</p> <p>○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
(評価)	<p>○</p> <p>企業との共同研究の推進、試作品の展示会出展、研究成果の技術移転、外部資金の獲得など、事業効果は現れています。また、これらの成果は、平成30年度、各種の技術支援、技術相談に反映されています。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）</p> <p>○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</p>	
(評価)	<p>○</p> <p>研究課題毎に、計画書の策定、中間時の進捗報告会などの実施し適切な事業推進が図られているか、随時チェックしています。また、共用可能な試験器材や現地調査、情報収集などは、経費執</p>

	行の効率化を図っています。
--	---------------

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>研究成果の普及面では、研究成果発表会、広報紙（年間4号）、マスコミへの情報提供、イベントでのPR等により積極的に広報を進めていますが、今後も、地元産業の現場で活用できる研究成果を提供していく必要があります。</p>
---

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>引き続き地場産業の抱える課題に対して、随時企業ニーズを取得し、企業支援を機動的・即応的に対応し、木質系産業の持続的な発展に貢献します。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	